

啼けよ。奴隸共

とある世界のハンター

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここで宣言しておきます。

読む価値は多分無いです。でも、それでも多分共感者はいるだろうな、共感してくれると良いなってそんなお話です。

まあ、半分愚痴なんですけどね、これ。

多分叩かれます。まあ、感想欄に考察なり共感したうだとか書いていいってください。罵倒は多分ガラスマメンタルに効きます。Mでは無いので是非止めて頂きたい。

考察に正解した方にはハンターポイント1点差し上げます。集めても何にもありません。

だって、この世界に価値など何もありやしないのだから。

第
1
話

目

次

1

第1話

私はこの世界が嫌いだ。

もう沢山辛い思いをした。もう死んだつていいじゃないか。なぜ死なせてくれない。なぜこの世界は私を殺してくれない。なぜ、私は死んでくれない。

もう… またその話か。ってね。いや別に良いんだ。話してるのは君で、君に悪気は一切無い。悪いのは私さ。過去の事をズルズルと引き摺つてる私が、悪いんだ。いい加減断ち切れたつて思えたのに… はてきて、人間とは余程愚かな人間らしい。

別に、死ねない身体なんて事は無い。
手首を切れば血は流れ、痛みは感じる。
高層ビルから飛び降りて、頭から大量出血すれば孰れ私は死ねるだろう。

⋮ 試した事は無いが。

死ねるのに、死ねないんだ。

ホームから飛び降りようと思った。足が竦んで動けなかつた。私を横切る特急列車が嘲笑う様で嫌だつた。死にたかった。

⋮ 死ねないけど。

私は、そんな私が嫌いだ。勿論君の事も、ね。いい加減嫌いにならなければ。

夢というものが無いわけじゃがない。寧ろそこら辺の学生よりかは遙かに夢に近い大学に入ってるし、専門的な内容を学んでいる。

：：おかしいな、高校時代の方が熱があるじゃないか。全く君つて

奴は：：バカの一言じや言い表せないな。

そんな君に存在価値はあるのかい？

ふと考へてみた。なんで生きてるんだろうって。だつて私はこんなに辛い思いをして生きてるのに、周りはさも当たり前のように生きてるのに…なんで私はこんなに辛いのかって。

辛い思いは、この思いは解消できない。この思いは大きく、黒く、重い鎖となつて私の首輪に繋がつてゐる。その長さに終わり等無く、永遠と付き纏う。

…せめてマントだつたら脱げたのに。

いや無理か。

生きるのが辛いよ…前向きに生きてみようか。そうしよう。ま

ずは過去の事を断ち切りましょう。そして現在のことを考えましょ
う。

辛い思いを吐き出してみましよう。文にして… 吐き出して、誰か
に共感して貰うのもいいかもしませんね。

⋮ だから

そこにはずっと消さなきやいけないものがあつて辛くて辛くて…
どんなに身代わりを用意してもそれは仮初にしかなくて、消えな
くて⋮⋮

生きる意味⋮⋮ つてあるのかな?

これは盲点だつた。もしかして天才か⋮⋮ ?

確かに、こんなに辛い思いをしてまで生きる意味等あるだろうかい
や無い。そう、無いんだ。
なーんだ。じやあ死んじやえよ。もう⋮⋮ 死んじやえ。

動悸が激しくなる。黄色い線より下がってしまった。

君はそんなに聞き分けのいい子だつたのかい？

： これで何本目だろうか。もう、鎖が重いよ。

ふと思い出した。小学三年生の夏。何もかもが嫌になり、自分も、自分を取り巻く環境全てに嫌悪感を抱いたあの夏。生きる事に重圧を感じ、ようじ登ろうとしたマンション最上階から目的地までのスタート地点。

： 足が短くて登れなかつた。
： ホントに愚かだな。

あの時あの場所で成功させていれば…
俺は… 俺…

生きなくて済んだのに

「こんな世界… クソ喰らえ… だ」

「… ア」

ココは空白。虚無。

あるのはボロボロの台所と沢山の器具や調味料が並んだ机。あと椅子と食器棚。あ、オーブンレンジもあったかな。換気扇の音が嫌に響いてて、私は台所と机の間にへたれ込むように座つて…

私の心臓には包丁が刺さつて、赤い血潮が両手にベツシリとこべり着いてた。ここで血を舐めれば満足かい？
…違うか。

つて、そんな台詞吐いとけば君は満足かい？